

Risk Management Report

[防災調査の現場から 第3回]

皆様が抱えているさまざまなリスクに対し、最適な保険をご提供するとともに罹災時の損害の軽減対策もあわせてご提案致します。今回は“屋内消火栓設備の操作方法”です。

屋内消火栓設備とは

- 屋内消火栓設備は、消火器では消火不可能と判断される火災の消火を目的として建物内に設置された消火設備です。水源、消火ポンプ、起動装置、屋内消火栓及び非常用電源等で構成されています。
- 消火ポンプの起動方式は、ポンプ起動押しボタン（専用）によるもの、自動火災報知機の発信機を押すことによるものがあります。

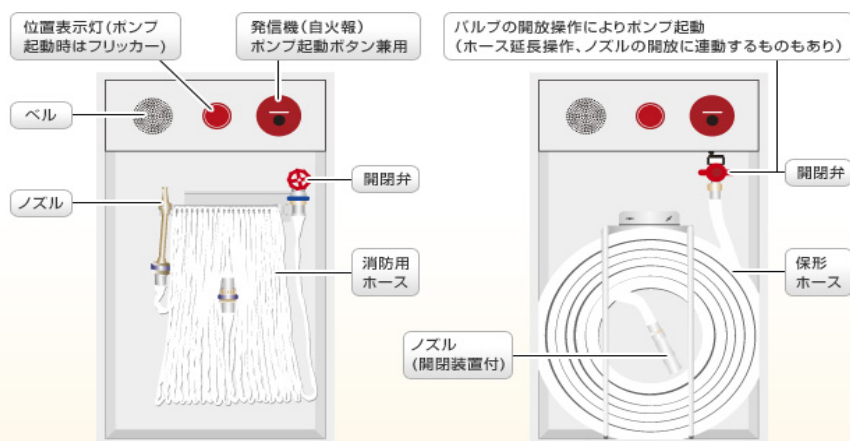
〔最近では消火栓弁開放過程での自動起動やホース延長操作による自動起動もあります〕

1 消火栓ポンプ起動



発信機のボタンを押し、ポンプを起動します。

2 発信機ボタン起動



1号消火栓の例

1号消火栓使用方法

- 1.発信機のボタンを押す。(ポンプが始動し、表示灯が点滅、ベルが鳴動)
- 2.ノズルを持ちホースを伸ばし、放水体制をとる
- 3.開閉弁を開き放水する

易操作性1号消火栓の例

易操作性1号消火栓使用方法

- 1.開閉弁を開放する。(ポンプが始動し、表示灯が点滅、ベルが鳴動)
- 2.ノズルを持ちホースを伸ばし、ノズルの開閉装置を開放し放水する

○屋内消火栓設備の種類は、放水圧力、放水量及び操作性によって従来の2人操作による1号消火栓の他、操作性並びに簡単な消火活動を重視した1人で操作できる易操作性1号消火栓及び2号消火栓に区分され、設置する防火対象物及び水平距離が定められています。

種類	【1号消火栓】	【易操作性1号消火栓】	【2号消火栓】
放水量 (ℓ/分)	130		60
放水圧力 (MPa)	0.17～0.7		0.25～0.7
操作性	2人以上	1人	1人
ポンプ起動方法	起動ボタン	(2号消火栓に準じる)	・消火栓開閉弁の開放 ・消防用ホースの延長操作
防火対象物	A:工場、作業所、B:倉庫、C:指定可燃物貯蔵庫もしくは取扱所、D:A～C以外の防火対象物		左欄のA～C以外の防火対象物
水平距離 (m)	25		15
ホースの長さ (m)	30		20

屋内消火栓設備の操作方法

○1号消火栓と2号消火栓の使用状況をイメージしてみましょう！

【1号消火栓の場合】

1 消火栓ポンプ起動



ポンプが起動すると
赤色表示灯が点滅します

2 ホース延長



ホースが折れないように
注意する
(周囲に消火活動を妨げる物が
置かれていないか注意する)

3 バルブ開放・放水



送水確認後、ホースが折れていない
かどうかを確認する

要注意！

★ホースを延長する前にバルブを開けると、水で充満したホースがボックス内に広がり取り出せなくなる場合があります。

【2号消火栓の場合】

1 バルブ開放



バルブを開放するとポンプが起動します。

バルブを開放すると表示灯が点滅しベルが鳴ります

〔ホースが当初より円形の為、バルブ開放時の水の充満が無く、常時取り出せる状態となっている〕

2 ホース延長



ホースを持ちながら、出火箇所へ向かいます。

ホースを延長する

〔周囲に消火活動を妨げる物が置かれていないか注意する〕

3 放水



ホースノズルのコックを開き放水します。

放水するときは、絶対にノズルから手を離さないようにする

身の危険を感じたら！

速やかに消火活動を中止し

避難しましょう！

“自分を含めた人命最優先！”で行動して下さい

【ご参考】＜消火後の対応（非常ベルを止める）＞

- ・消火後、消火栓バルブを完全に閉め、起動ボタンを元に戻し、火災受信盤を復旧させます。
- ・消火栓ポンプ室に行き、制御盤で停止（OFF）ボタンを押してポンプを停止させて下さい。

【ご存知ですか？】

＜非常ベルが鳴っても消防署へ同時通報されないシステムもある＞

- ・火災報知機の非常ベルが鳴り響くと同時に、消防車がやって来ると勘違いしている方が多いようです。マンションの場合は注意が必要です。
- ・マンションには、消防本部指令センターに直接連絡する「消防機関へ通報する火災報知設備」システムになっているものもあれば、マンション専用のホームセキュリティとして異常危険を遠隔監視しているセキュリティ会社のセンターに自動通報するシステムもあります。マンションに住んでおられる方は、一度確認してみましょう。